

12/19(土)まじび! 倫理号です。親孝行=いよいよいよいよ。ただその思いを形に表われないのが一番! 親に心配を感ずる。親孝行=いよいよいよいよ。

親孝行=いよいよいよいよ

2020. 12. 19～12. 25

今週の

倫理

12月のテーマ | 親を大切にす

1208号

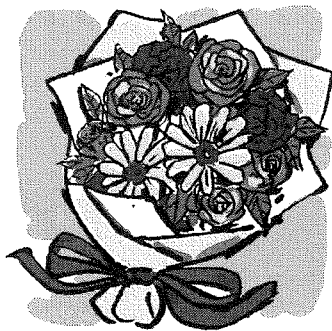
「親に感謝をしている」「親を大切に思っている」と心では思っているが、その思いが形に表われないことがあります。

「親孝行」という言葉がありますが「親孝行」とは「親を大切にし、真心をもってよく尽くすこと」を意味します。ポイント「真心で尽くす」ことです。

「尽くす」とは「他の者のために精一杯働いたり努力したりすること。尽力すること」です。従って、親を大切に思うだけでなく、精一杯その思いを形に表わす努力をするからこそ、その思いが本当の意味をなすといえるのではないのでしょうか。

Sさんは今年の夏、帰省するかどうか悩んでいました。両親に孫の顔を見せてあげたいけれど、帰省することで実家の家族に迷惑をかけないか、また「職場では、帰省することをよく思わない人もいるのではないか」と色々なことが心配になり、答えが見つかりません。

結局、自分たち夫婦だけで悩んでいても仕方がないと思ったSさんは、両親に電話で相談をしてみました。すると、母親から「うちは大丈夫やで。そんなに気にならないから、今年の夏は、家族だけで過ごす夏休みにしたらいね。もしあれやったら、私がお父さんと二人で大阪からあんた達家族を車で迎えに行つてあげるよ。そして、帰りも車で東京まで送つてあげる。そして、安心して帰省できるやろ」と言われました。その言葉にSさんは驚くと共に、両親からの深い愛情を感じました。



親に真心を尽くす

そして、Sさん家族はその両親の言葉に甘えることにしました。実際、小さい子供を連れての東京・大阪間の車での移動は大変でした。しかし、それ以上に今年の夏はこれまでと違った色濃い家族の時間を過ごすことができたのです。

Sさんは両親の言葉や行為を通して、今できることは何かを考え、行動に移すことの大切さを学びました。そしてこれが「真心を尽くす」ことだと、本来は自分が尽くすべき相手より学んだのでした。

コロナ禍において、年末年始の帰省に悩まれる方も多いのではないのでしょうか。お互いがお互いを思うからこそ、行動に制限がかかります。しかし、このような時だからこそ、家族との時間を大切にすることも大事なことでしょう。

「コロナだから帰省しない」と言うのは簡単です。しかし、言葉は選ばなければなりません。安易に発した言葉が言葉足らずであったために、誤解が生じる場合があります。その誤解もすぐに解ければよいのですが、なかなか会えないがために、その溝が深まってしまふこともあります。

帰省できないのであれば、両親のために自分は何ができるのかを考え行動すること、親子間の絆が深まるものです。

両親と共有できる時間にも限りがあります。だからこそ、両親のために自分は何ができるのかを今一度考え、それを行動に移し、限られた親との時間を有意義なものへとしていきたいでしょう。